

## J Aバンク新規就農助成

# 東北一の3064万円

## 15年度“オール山形”推進奏功

農林中央金庫などによるJAバンク新規就農応援事業の2015年度助成額が確定し、県は3064万円と東北一の実績を上げた。特に、新規就農研修受け入れへの支援先は、14年度の3件から一気に17件に増えた。関係者は、JA山形中央会地域・担い手サポートセンターを中心に、行政と関係機関・団体が一体となったオール山形の枠組みで、活用推進に取り組んだ結果と見ている。

年10月に設立したJA山形中央会地域・担い手サポートセンターは、農林中央金庫支店を含めたJA

AGグループ山形の横断的組織で、オール山形体制による担い手育成に大きな力を発揮していることを真付けた形だ。

助成を受けるには、事前申請が必要。16年度分は、9月1日から17年2月末まで受け付ける。問い合わせは農林中央金庫支店営業第一班、(電)023(641)6319。

新規就農応援事業は、農林中央金庫「JAバンクアグリ・エコサポート基金」を設け、次代の担い手を地域で育む就農・定着支援事業として、10年度から行う。

新規就農研修を受け入れる農家や農業法人、生産者組織などを対象に、資材費や住居費の他、必要費用を研修生1人当たり月額最大1万円を24カ月分まで助成してきた。15年度からは、指導・育成体制で一定の要件を満たす受け入れ先には、研修生1人当たり月額最大3万円に助成単価を引き上げる一方、新たに独立新規就農者への営農支援も始めた。国、県の支援が手薄な種子や苗、肥料購入など農業経営に掛かる費用を1人当たり年間最大20万円助成する。

これら15年度分の助成申請は今年6月末で締め切られ、8月16日付で助成金が交付された。

助成額は、研修支援で17件に564万円、営農支援で125人に2500万円となり、東北では最も高い額となった。

研修生の数でも、14年度の4人から19人に増え、新規就農を促す効果があったと見られる。15